

初のIUSOHレセプション



「Dick, ユニオンをつくりましょう」

私は、姉妹校であるミシガン大学のR.クリスチャンセン歯学部長に提案した。姉妹校提携だけでは物足りず、姉妹校を縦軸として、各姉妹校を横軸に結ぶユニオンを結成したいと考えた。Dickは、すぐに私の意図を理解し、その場で「International Union of Schools for Oral Health, IUSOH」とメモした。少し思案して、forをofに書きかえた。

当時、まだOral Healthという概念はなかったので、私は、彼の先見性と先進性に括目した。同席の小倉英夫君と相談し、日本語では「口腔保健のための国際姉妹校連合」と命名した。

翌昭和60年（1985年）5月、Dickは再度来校し、本学とミシガン大学はIUSOH結成書に調印した。私たちは、この新しいグループ活動に共鳴する大学に、積極的に加盟を呼びかけることにした。同年10月にパリに飛び、フランス最初の歯学部であるパリ第7大学歯学部と、姉妹校およびIUSOHの調印をした。N.フォレスト歯学部長は、「本学がIUSOH

の3校目の加盟校になるのは、たいへん光栄です」と率直に喜んだ。

このIUSOHは新しいスタイルの国際活動として注目され、同12月には、中国最初の歯学部である成都の華西医科大学、翌年3月にスイスの首都校のベルン大学、8月にはイスラエル最初の歯学部のヘブライ大学が次々に加盟した。

平成元年（1989年）6月、アイルランドのダブリンでIADRの開催中、本学主催による初のIUSOHレセプションを催した。私は小倉君に強要されて、生まれて初めてタキシードを着て、白夜の街並みを見わたすホテル会場に加盟校約50氏を迎えた。IADR会長のW. D. マクヒュー夫妻もみえた。

うろ覚えだが本学からは、須賀昭一、鴨井久一、笹川一郎、奈良陽一郎、沼部幸博、八重垣 健の各氏が出席した。

（写真：午後8時のレセプション、アイルランド特有の驟雨がやむ）